

うえだ News 環境市民会議

平成 17 年 7 月 15 日
第 19 号

発行：
うえだ環境市民会議
〒386-8601
上田市大手一丁目 11-16
上田市生活環境課内
電話：0268-23-5120
FAX：0268-25-4100
seikatukankyo@city.ueda.nagano.jp

うえだ環境市民会議は、市民・事業者・市のパートナーシップにより、今後プロジェクトチームにわかれ、環境をよくする活動に取り組んでいきます。

柴崎茂利

上田市上野の住人です。高速道路が近くを走っていますが、振動や騒音、排気ガス等の悪影響をほとんど感じる事なく、平穏な自然環境と思いながらサラリーマン生活を40年近く続けてきました。そんな折、企業の代表としてうえだ環境市民会議に係わり3年目を迎えました。その間、いろいろな人がいろいろな角度から、自然環境保護活動や地域環境保全活動を推進している実情を見てきました。そこから得たものは、「環境活動は一人では効果が極めて小さかったり上がらない、一方一人でもルール違反をすると大きな多くの悪影響を地域に及ぼす」という事です。より多くの市民、事業者、そして行政が手を結び、環境活動に参加する「まちづくり」を目指しましょう。

組織と体制が変わりました

5月23日に開催されました「第7回うえだ環境市民会議」において、組織と体制が変わりました。まず組織ですが、これまで7つのワーキングチームで活動してきましたが、これからは4つの活動の柱

- ① 地球温暖化防止を進めるまち：(例)地球温暖化防止、光エネルギーの利用、小型水力発電、デマンド交通、各家庭でできる温暖化防止対策etc
- ② 安心と健康が溢れるまち：(例)おいしい水の発見、上田の水源を知る、きれいな水の循環、澄んだ青空を求めて、水と緑と土についての連続講座etc
- ③ 自然の恵みに包まれたまち：(例)自然豊かな里山づくり、魚の棲む河川づくり、森林づくり、指定樹木の保護、遊休農地を活用したビオトープづくり、グリーンベルトの保全・活用、うるおいのある街路景観づくりetc
- ④ ゴミゼロのまち：(例)生ゴミの堆肥化、家庭ゼロエミッション、脱食品トレイ、脱レジ袋、虹の分別、ウィークエンドリサイクル、循環型社会の実現、擬洋風建築や蚕室づくりの民家の保存・活用etc

に基づき参加者が実践したい具体的なテーマごとにプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトチームとして活動して行きます。

具体的なプロジェクトは次号の「うえだ環境市民会議News」でお知らせしますので、たくさんの市民の参加をお願い致します。

次に体制ですが、議長の柴崎茂利さん、副議長の布施教子さんに企画運営委員10名を加え、12人で話し合いながら「うえだ環境市民会議」の活動が全市的に波及して行くように努力しますので、よろしくお願ひ致します。

以下に新体制の議長、副議長、企画運営委員の環境に関する思いなどを記しましたので、ご一読頂ければと思います。

こんな活動を続けてきました 布施教子

1988年から消費者団体に加わり環境問題に取り組み始めました。当時、全国的には今まで焼却していたごみを分別して資源として生かそうという運動が活発になっていました。上田市ではまだ3分別の段階でしたので団体として行政に働きかけを続けました。牛乳パックやトレイの店頭回収も取り扱い店に御願ひして実現しました。現在の自治会資源回収と店頭回収の先駆けを担ったと思います。今は、グリーンコンシューマーの活動に力を注いでいます。

環境市民会議では出来るだけ多くのお仲間と一緒にいかかわって様々な環境保全活動を展開していきたいと願っています。

山崎敦之 あつし 上田市上塩尻

私は、上田信用金庫総務部に勤務、環境関連部門を担当し、4年になります。

当会議の皆様には、事業所及び個人的な立場の両面から、諸処ご指導をいただいております。

個人的には、「塩尻元気会」という任意団体で活動しております。

地元の虚空蔵山がしっかりと大地の上に立つように、我々住民もいつまでも、地元・塩尻を愛し、守っていくという趣旨のもと活動しております。

まずは身近な環境・自然に関わっている今日この頃です。

前田光俊

上田市秋和

(生まれたのは上田の中央、夜に活気づく街)

●井の中のカワズで世間知らずです。嫌いな言葉は「寄らば大樹の陰」。世間の流れに逆らってきたので、一昨年店を閉じてしまい、今は無職です。

●“ま～ゆ”に入って新しい物差しを知り、「地域通貨によって世の中が変わる」と信じている一人です。

●恥をしのいでケチケチ生活を続けてきたら、今やそれがエコライフ。胸を張って生きられるようになりました。

竹内秀夫

上田市御所

2年間議長をして一番強く感じたことは、「うえだ環境市民会議」に参加されているみなさん一人一人が持っているパワーがとても大きいことと、そのエネルギーに後押しされる格好でどうにかやって来れたということです。みなさん、どうもありがとうございました。

今後は企画運営委員のひとりとして多くの方々と協力しながら私たちの活動の輪を広げて行かればと思います。

自己紹介について

村山 顕

私は以前から住みやすい、魅力のある町上田になって欲しいと、思っていました。

行政を含め皆で取り組まなくてはいけないことなので、自分に出来ることは少しでもお役に立ちたいという気持ちもあって、自然や環境に関係のある、この会に参加しました。

余談ですが、最近用があって新潟まで行ってきましたが、東京方面へはとても便利なのに、新潟市へでは意外と不便だと分かりました。これも中央思考の表れでしょうか。

「スローな暮らし」を夢見て!!

安井 啓子

春から野菜づくりを始めた。それも気の合う仲間と一緒に。これが中々おもしろい。作り手の個性が畑に出ているようだ。自分たちの食べるものを少しでも自分たちで作りたいと始めたささやかな試みだ。農薬や化学肥料に頼らないで自然の力に任せると言えば聞こえはいいが、私のは手抜きだ。しかし不思議なもので少々虫食いの菜っ葉も自分で作ったものなら苦にならない。それに「種」を蒔いたところにちゃんと芽が出た時の嬉しさはまた格別だ。“より早く、よりたくさん”ではなく、ゆっくりとした時間の流れの中でささやかな営みの一つ一つをじっくり味わいながら暮らしたいと夢見ているが、中々そうはならないのが現実だ。

野々村 孝子

バスもかよわない山奥に生まれた私は、水や植物、土、空気そのものは体の一部命そのものでした。

成長して自然から離れて生活するようになったとき、体調を崩しました。そんな時、野山を歩くと生きかえっ

たように元気になりました。自然に人の命が育まれていると感じられたときでした。

今そんな自然が人によってこわされ人が住みにくくなってきています。未来の子供たちに以前の美しい自然に戻して渡すには何が出来るのかを探っていきたいと思います

“私ってこんな人”

大久保 裕子(倉升)

今まで環境問題にはまったく関心がなかった私。環境問題が取り上げられるにつれて、あまりにも知らないことばかりで赤面するばかりだった私。

でも、少しずつ学習するにつれて、難しいことはわからなくても、自然を大切に思う気持ちが、環境問題を意識することに繋がっていると思うようになってきた私です。

小泉 寿彦

上田市浦野

豊かな生活をしようと、自然に対し人間が過度な力を加え環境破壊を引き起こしました。

少しは自然環境を復旧し、地域性を生かした自然との共生「子ども達に川で魚とりの楽しみ」「山菜とり、芝生でなく草原の中で遊ぶ楽しみ」などのために多くの仲間が集まり実践出来る事を願っています。

「誰もが健康で安心して暮らせる住み良いまち」をめざして～ゴミ問題について思うこと～

山口 春香

住吉

私たちは限られた資源を大切に「ごみ減量」をめざし、環境に優しい暮らしと共に循環型社会の構築が責務です。

「ごみ」の減量は私たちのみでなく「行政、事業所、市民」がそれぞれの責務を担い積極的に推進しなければなりません。

このことを踏まえた上で、私たち一人ひとりができることから実践し、次世代の子どもたちに少しでも良い環境を残してあげようではありませんか。

古川 紘一

住吉

30年の会社勤めを終え さーこれからはやりたいことをやるぞー! と思っていた矢先に広報で”あなたも審議委員に”という募集を見てすぐに応募し環境審議委員になったのが市民レベルでの環境活動に縁した始まりでした。

以来審議委員、環境市民会議メンバーとしてやってきましたが今後は化石燃料の代替エネルギー、エネルギー効率の改善というテーマをもとに「持続可能な社会」を目指し自分の持っているものを少しでも役立たせたいなと思っています。

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、いつでも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、上田市生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

事務局 上田市生活環境課内：電話 0268-23-5120